



黄河の森

K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表理事／金 啓 功
編集責任者／小 川 良 太
〒650-0011
神戸市中央区下山手通7-11-12
福建同郷会館内
TEL／FAX 078-360-2779
E-mail:mail@kouganomori.com
URL: http://kouganomori.com



「新堰堤(流木捕捉)と新植樹地」



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 事務局からの報告
(第21回通常総会の開催結果)
訃報 矢野正行事務局長急逝
- P.3 追悼
絵本からのメッセージ ③⑧
- P.4 誌上「歴史散歩」
地名「馬場町(ばば・ばんば)」の起源は
お知らせ・訂正

事務局から
の報告

第21回 通常総会の開催結果 2件の課題

1. 中国活動

第21回通常総会を6月28日に開催しました。今回の大きな課題の一つは中国における活動の再開についてでした。内蒙古自治区における活動は、コロナ禍の2022年度で終了しました。その後は渡航制限などもあり現在も、中国における活動については中断しています。この間、理事会においても再々議論はありましたが結論には至りませんでした。

カウントパートのオトカ前旗からは、事業の再開を望む声が届いておりました。この間、中国国内では中央政府より地方政府に対して、緑化事業の一層の推進の指示もあったそうです。5月下旬には仲介人であるオトカ前旗出身で、もと留学生のウリト氏が再開への要請と協議のために神戸まで来られ、地元政府も協力と準備の努力をしていることを伝えられました。

会議では今やGDP世界2位の中国に対してこれまでの様な経済援助が必要なのか、また外国人の拘留事を併含め中国国内の政治状況に対

する懸念を示す意見もありました。しかし、会の設立目的でもある中国緑化協力事業を無視できないとの意見もあり、最終的には再開に向けての検討と情報の取扱いに取り組むことになりました。

2. 国内活動

神戸市住吉山手における事業はこれからも継続します。同地での活動も20年を超え、周囲の森林と区別がつかないほど木々が茂っています。ただ一部では土壌・地下水水分の条件が適さないのか、苗の活着が進まない場所もありここ数年は補植をすすめております。



20年を超えた植樹地（東より）



新たな植樹地（北より）

今後の活動は前号でも報告しました、新たにできた堰堤の土砂捕捉地での植樹を進める予定です。

5月29日に「森の世話人」事務局の立ち合いのもと、事業範囲を確定しました。新たな地区での植樹は来年3月から着手する予定で準備を始めます。植樹を多くの進めるにあたってはより多くの人に参加を呼び掛けることを考えています。



訃報

矢野正行事務局長急逝

本年4月9日矢野正行さんが、突然の病で亡くなりました。75歳でした。余りにも急なことでした。

会の発足間もない2003年に加入され、2008年には事務局長を引き受けられ、その後は15年余の長きに渡って、その責務を担ってこられました。この間、会の前面に立って活動を続けてこられました。中でも活動資金の確保には最も苦勞されたことと思います。

活動資金の確保の面では現役時代の企業での経験を生かされて、常に企業・公的機関の環境保護支援基金などの情報収集をされておられた様子でした。2006年から2010年までは民間企業の環境保護基金の支援が得られましたが、長期間の援助は得られないため、次に公的機関の「日中緑化交流基金」の援助をえることになりました。ここでも実現のために東奔西走しておられたようですが、その間のご苦勞は一言も漏らされておられません。2010年には個人・法人からの寄付金増を図るために、寄付者が税制上の優遇措置を受けられる認定法人の申請を行い、同年7月には大阪国税庁より認められ

ました。ご本人には資金面の強化と共に、これを機に組織の強化と社会的認知の向上を図る狙いがあったようです。認定の準備には約1年にわたる時間と、困難で大量の書類作成があったようです。この間のことは併にご苦勞された会計担当理事の方の証言です。

中国での活動の準備当たっても困難なことが多かったようです。活動地選定・現地の協力機関との協議などスムーズにいかない案件ばかりでした。会の理事には中国語の堪能な方がおられますが、それでも言葉を始め文化・習慣・考え方の違いは大きく簡単な書類一枚を作るにも多くの時間を割いておられました。

矢野さんのボランティア精神はご自宅の地域社会でも発揮されており、自治会活動・防災士の資格を習得し小中学校で安全講習会を開催したり、通学路での見守りとその活動は多方面でした。

会の発足から20年余りが過ぎ、会としてはコロナ禍終息後の新たな活動目標を模索する中での大きな損失です。

追悼

矢野正行さんを悼む 会員 中谷 安廣

PCを開いて飛び込んできた「訃報」2文字、まさかと思いつながら手が震えた。何が起こったのか、暫く理解できなかった。思い出しては、ショックが戻ってくる。

矢野さんは事務局長として、内外の役割、対外折衝、裏方を含め、そつなく果たして来られた。ご自宅の奈良と神戸を10年以上にわたるお勤めでしたね。このなかでもチーム内外の親睦・コミュニケーションを、もっとも大事にされていました。私も活動や理事会の後の、コミュニケーションが楽しみでした。中国でのワーキングツアー先で、二人して酔いつぶれたことも今となっては苦くも懐かしい思い出になりました。矢野さんお疲れ様でした。私は腰痛で思うようには動けませんが、リハビリをしながら今しばらくは会のお手伝いをと願っています。

矢野さん長い間、ありがとうございました。安らかに眠りください。

楽しかった・感謝 会員 李 雲精

先の4月9日矢野正行さんの突然の訃報に接し、大きな驚きに包まれました。2008年に「黄河の森緑化ネットワーク」事務局長の任を引き受け、持ち前の行動力と前向きの決断力で前へ前へと会員の皆さんを索引され、非常に頼もしく指導していただきました。常に尊敬の念と会の活動への期待を持って見ておりました。

理事会や活動終了後の三宮の高架下の居酒屋での、仲間たちとの楽しい語らいのひとは最高の時間でした。幅広い話題と談笑が止むことなく、故人の豊かな知識と会話は、尽きることのないのが常でした。この時間は過ぎるのが速く毎回復散するのが惜しく、心残りながらも切り上げ次の飲み会を期待しつつ帰宅していました。

黄河の森緑化ネットワーク活動のすべての面で、故人の働きのおかげで円滑・円満に進行しておりました。故人の性格でしょうか、愚痴一つ言わず温厚な感性をつくづく感じ入っておりました。非常に惜しい仲間を失ったと、残念な思いでいっぱいです。

故人との活動時のエピソードは数限りなくあります。もっとも多くはお酒にまつわるものですが、その中の一つは、故人を含め四人ほどと、蘭州市の植林担当者と飲食したときに深酔いをしてホテルへの帰り道、ふっと見つけた露店で帰国前夜ながら、なぜか大量のリンゴを買い込まれ

ました。翌日の北京空港で別コースを旅していた会員の一行と合流した際、「二日酔いのせい、昨夜のリンゴをホテルに置き忘れてきた。」といかにも残念そうにいつておられました。ユニークで快活な性格で、いつも周りの人たちは笑いの絶えないのが常でした。私達は、ほんとうに惜しい人を亡くしました。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

矢野さんの思い出 会員 一木 仁

矢野さんについて思い出すことといえば、とにかく黄河の森が好きだったのだなあということに尽きます。黄河の森の会合終了後、三宮から奈良方面への電車で一緒に帰りましたが、話題といえば黄河の森のことばかり。その情熱には圧倒されっぱなしでした。

発足当時は、天安門事件の記憶もまだ残っており、この会は一体どこに向かうのだろうと少し不安を抱いていました。それを抜群の行動力とアイデアでまとめ上げ、軌道に乗せてくれました。とにかく、笑顔が最高に素敵でした。中国・蘭州のラーメン、カシュガルのハミ瓜、おいしかったですね。また、一緒に食べましょう。

矢野さん安らかに 会員 小川 良太

今年の年明け、いつも通りメールを交わしている中で「足首の調子が悪く歩けないので、神戸まで行けない。」との一文があった。正月の深酒で歩く際に捻挫でもされたのかと、何気なく読み流していた。その後打連絡事務のメールをしても返事が返ってこず、電話を入れたところ「苦しくて30分もパソコンの前に座っておれない。」の一言で会話は終わった。ようやく病状の深刻さに思い至ったが、我々としては早期の回復を願うしかなかった。

会員の皆さんもご存じのように、無類の酒好きと酒豪であった。その酒は陽気で、いかにも楽しいといった様子で、酔いつぶれることは殆どなかった。会の歴史散歩を企画する際の唯一の要望は、酒蔵の訪問であった。

葬儀後ご自宅にお伺いした際、自筆の写経の掛け軸が目についた。ご家族によるとお寺参りと歴史、特に中国の古代史に強い関心をもっておられたとのこと。故人の別の一面と黄河の森への熱意のみなもとを改めて知りました。



絵本からの メッセージ 38

「もりのホテル」

児童文学者 畑中 弘子

「もりのホテル」の帯に、「おもてなしの心が伝わる絵本」と書かれていました。神戸も多くの観光客で賑わっている昨今です。外国からの方も沢山いらっしゃいます。日本の自然や文化や人々の暮らしに触れ、美しい楽しい思い出をいっぱい持ってかえってほしいと思います。

「もりのホテル」ではどんな「おもてなし」をしているのでしょうか。大人気のこのホテルは森のあらいぐま一家が経営しています。いつも花でいっぱいの庭、美味しい料理、そして何よりもどんなお客さまにもぴったりの部屋を用意されます。「せまくて のびのびできるへや」を頼んだへびさん、「おひさまってのは まぶしすぎて かなわん!」と言うふくろうさん、大きな熊さんや小さな小鳥さんたちにも、自分の思い通りの部屋が用意されました。大満足の動物たちの姿が生き生きと描かれていきます。この素敵な「もりのホテル」に、読者の人間たちも泊まりに行きたくなってしまうこと請け合いの楽しい絵本です。



作・絵：ふくざわ ゆみこ
(学研)

誌上「歴史散歩」

地名「馬場町(ばば・ばんば)」の起源は

会 員 小 川 良 太

筆者の自宅の近くに「馬場町」がある。その起源はと思うことがあり古い地図や地誌を読むことがあった。「馬場道」とは多くの場合には社寺の参詣道を指す語とされている。それは社殿から一直線に伸びる道が、「競べ馬」など馬事の行事が行われていたとのイメージが働いていると思われる。しかし、「ばんば」と読めば「幡場」とも表記できる。古代においては寺社はもちろんのこと、宮殿・貴人邸宅門前に「幡」を立てていたことが起源とも考えられる。この「馬場」地名については関東の知人と雑談していると、「遺跡の分布を調べている中で、社寺(跡)遺跡と近接あるいは重複している例がいくつか認められる。」と聞いたことがあった。そこで神戸市内を中心に「馬場」地名を探してみた。

神戸市中央区の生田神社は現在では神戸市内随一の繁華街の中にあり、周囲は飲食店が取り囲み社殿から南方向へ、2号線(旧山陽道)と交わる生田筋が参詣道であり、南端にある赤鳥居もネオン街の中に埋もれている。ここが1960年ごろまで「馬場道」と呼ばれていたようである。江戸時代に刊行された「摂津名所図會」によると、道の両側には松と桜が植えられ春には花見の人々で賑わう様子が描かれている。以下、同じく「名所図會」に描かれている東灘区の本住吉神社・長田区の長田神社・垂水区の海神社の参詣道にも「馬場」の文字が認められる。いずれの神社も古代史にも登場し、山陽道に面した古社である。いずれも街道が起点となっている様子が窺われる。

東灘区の本住吉神社においては、今も現境内の鳥居から南へ一本道が延びている。昭和初期の古い地図によると、旧山陽道浜街道と交わる地点(現阪神電鉄住吉駅)を中心として馬場地名がのこっていた。現在の地図からは消滅している。名所図絵には街道を行きかう旅人や茶店の様子が描かれている。長田神社は現国道2号線に面して大鳥居が立っている。ここは国道2号線が旧山陽道である。海神社は今ではJR垂水駅に接して、文字通り海に向かって境内が広がっている。西宮市の西宮戎神社にも境内東門から、旧西国街道(現国道171号線)と旧西国街道(大坂から海岸沿いに西下)が交わる地点までの約300m間が馬場町である。



西宮戎神社東門内より馬場道を見る

ではこれらの神社では馬を使った神事が行われていたのか。そこで、それぞれの神社が刊行している神社史にあつてみたが、神社が主催する祭礼の中には競馬・流鏝馬が行われてことを記すものはなかった。しかしながら、「海神社史」の資料中に氏子の旧家で保存されていた文書には、江戸時代の祭礼に際して行われた競

馬の費用を分担した旨の記載が残されていた。「長田神社史」にも祭礼の様子を記した一文の中に、氏子たちが競馬・流鏝馬を楽しんでいたとの表記が見られた。これは参道で行われる馬事は神社における祭礼とは別物ということであろうか。ともかくも馬を利用した行事は行われてことが判明した。

今一つ神戸市内で気になる「馬場町」がある。中央区馬場町である。大倉山の北麓にあり、ここからは背後の山上にある祇園社へと続く直線の坂道がある。この祇園社は平安時代前期から祀られており、現在に至るまで信仰を集めている。この一帯は平清盛が遷都を強行した福原京の一角である。福原京の実態についてはいまだに解明できていない。清盛邸跡とされる「雪の御所跡」と伝えられる場所はあるが、それも伝承の域を越えない。その他の平氏一門の邸宅についてはなおさらである。その中で当時のこの地域の様子を窺わせる「高倉院殿島御幸記」によると、高倉院を迎えて頼盛邸で笠懸・流鏝馬が行われたことが記録されている。そこでこの馬場町が該当地ではないかと推測されたこともあった。しかし「馬場町」の位置と祇園社の位置関係を見ると南北に並び、一直線の道があり頼盛邸が造営以前から存在した地名の蓋然性が高いと考えられるので、頼盛邸跡と考えるには疑問符が付く。

限られた範囲を当たっただけであるが、「幡場」起源を示す資料には出会えなかった。ただ改めて住居表示変更・都市化による歴史・地域性を表す地名の消失の多さには驚いた。

(本文は2022年に「地名探求」京都地名研究会刊への投稿文の一部改変したものです。)

訂正・お知らせ

- ※ 所在地の福建会館は「福建同郷会館内」に訂正します。
- ※ 黄河の森緑化ネットワークのHP・Eメールのアドレスが7月1日より下記に変更しました。

E-mail: mail@kouganomori.com
 URL: http://kouganomori.com
 (TEL.078-360-2779)

六甲山クリーン&グリーン活動

六甲山植樹(植樹・下草刈り) 21期

- 開催日時 令和6年10月5日(土) 雨天中止
下草刈り
- 集 合 JR住吉駅南広場 (午前9時)
- 服 装 長袖・帽子・運動靴
- 持参品 弁当・飲み水・軍手・雨具・タオル